



創立55周年に 新たな時代に向けた企業連携を



受賞者を代表して謝辞を述べる古屋氏

山梨県中小企業団体中央会は、5月31日（月）午後2時から昭和町「アピオ」で、第55回通常総会を開催した。

会員組合等の代表者、来賓並びに受賞者など約200名の参加を得るなかで、通常総会・表彰式典・交流会を実施した。

通常総会のあいさつの中で、内藤会長は「本年度創立55周年を迎える当会の55年の足跡を振り返るととも

に、新しい時代における企業連携の意義やビジョンを確認し、「あるべき組合、中央会の姿」を再構築し、今後も引き続いて中小企業連携活動を力強く展開していく契機の日とすべくため各種の諸事業を実施する」と呼びかけた。

通常総会では、平成21年度事業報告及び収支決算と、平成22年度事業計画及び収支予算など、提出された

全ての議案が原案通り決定された。理事退任に伴う役員補充選挙では、新たに天野一氏及び依田正司氏が、新理事として選任された。また、直ちに開催された理事会では、依田正司氏が常務理事に選任された。続いて表彰式典に移り、始めに、中央会役員及び組合退任理事長への中央会会長感謝状が贈られ、優良組合、組合功

労者、青年部功労者、女性

部功労者並びに優良専従職員に対して中央会会長表彰が贈呈された後、受賞者を代表して古屋氏から謝辞が述べられた。また、来賓として出席をいただいた横内正明山梨県知事、武川勉山梨県議会議長、上原勇七甲府商工会議所会頭から祝辞が述べられた。

式典終了後の交流会では、宮島雅展甲府市長から祝辞が述べられ、櫻井成好関東経済産業局産業部次長が乾杯を行い懇談に入った。懇談では、出席者相互の積極的な交流が行われ、中小企業が共にこの難局を乗り越え発展していくことを誓い合っていた。最後に、阿部学商工組合中央金庫甲府支店長から締めめのあいさつを頂き閉会した。



挨拶する内藤会長

第55回中央会通常総会を開催



山梨県中小企業団体中央会機関誌
平成22年度中小企業組合活性化情報

定価100円
昭和36年4月10日
第三種郵便物認可

6月号

2010年
第640/218号
(毎月1日発行)

5月の出来事

●時 事

- 1日 史上最大規模の上海万博開幕
全国一斉にメーデー集会開催
- 5日 子供の人口、29年連続で減少、
過去最低
- 6日 高速増殖炉「もんじゅ」、
14年5ヶ月ぶりに運転を再開

●山梨県中央会ニュース

- 13日 労働専門委員会
- 14日 第2回正副会長会議、第1回理事会
商業専門委員会
- 31日 第3回正副会長会議、第55回
(平成22年度)中央会通常総会

6月の予定

- 2日 青年中央会通常総会

今月の見どころ

- 1面 中央会総会開催
- 4～5面 各組合活動紹介
- 6面 ただいま開発中

その他、各種事業案内、施策等々情報を掲載

発行所 山梨県中小企業団体中央会
甲府市飯田2-2-1 中小企業会館4階
TEL 055(237)3215 FAX 055(237)3216
<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp>
e-mail webmaster@chuokai-yamanashi.or.jp

平成22年度

山梨県中小企業団体中央会表彰

山梨県中小企業団体中央会
感謝状

●退任理事長
23名

河西 陽雄（身延砂利協同組合）
溝口 耕一（甲府市廃棄物事業協同組合）

古屋 昶（協同組合山梨県総合環境クリーンセンター）

鈴木 喜一（甲府駐車場事業協同組合）
高野愛治郎（山梨県中小建設業協同組合）

吉村 達夫（大月エルピーガス販売協同組合）

萩原 経明（都留食糧協同組合）
渡辺 繁樹（岳麓自動車検査事業協同組合）

樽井 晃（山梨飲食業協同組合）
久保田清則（山梨県自動車車体整備協同組合）

市川三千雄（山梨県宅建事業協同組合）
笠井 雅樹（西嶋和紙工業協同組合）

茂手木 寛（山梨県印刷用品卸商工業協同組合）

小池 昭光（身延珠数土産品協同組合）
川手 正紀（山梨県アパレル工業組合）

岡部 邦男（山梨県森林整備生産事業協同組合）

清水 正二（甲斐市管工事協同組合）
雨宮 健一（山梨建築設計監理事業協同組合）

中村 啓（山梨県測量設計業協同組合）

西室 覚（山梨県土木コンクリートブロック協同組合）

田口 太一（峡南生コンクリート協同組合）

鈴木 一朗（湯村温泉旅館協同組合）
中山 武徳（峡北自動車整備協業組合）

山梨県中小企業団体中央会
会長表彰

●優良組合
4組合

企業組合みのぶゆばの里・とよおか
甲府市環境事業協業組合
富士観サービス事業協同組合
南アルプス特産品企業組合・ほたるみ館

●組合功労者
19名

秋山 進（南アルプス市管工事協同組合）
天野みな子（山梨県療術業協同組合）
岩間 辰也（山梨県地質調査事業協同組合）

上野 武（山梨県自動車整備商工組合）

小池 靖（甲府建具協同組合）
小林 和成（山梨県療術業協同組合）

小林 稔蔵（山梨県造園建設業協同組合）

小松 武夫（山梨県石油協同組合）
五味 政治（山梨物流事業協同組合）

田中 仁（山梨県板金工業組合）
藤田 綾子（山梨県化粧品小売協同組合）

藤原 勇（山梨県トラックターミナル協同組合）

森澤 顕（甲府市管工事協同組合）

森山 東亜（塩山車検センター協同組合）

矢崎 悦雄（山梨県化粧品小売協同組合）

山本 武（山梨県宝石研磨工業協同組合）

山下 智（山梨県蒔蒔原料商工業協同組合）

渡辺 勇（山梨県自動車整備商工組合）

渡邊 新一（山梨県自動車整備商工組合）

●青年部功労者
5名

柏木 正（西桂織物工業協同組合）
須田 猛（山梨県自動車整備商工組合）

堤 明伸（山梨県造園建設業協同組合）

藤本 豊（山梨県板金工業組合）
山縣 正道（山梨県塗装協同組合）

●女性部功労者
1名

荒井 房子（山梨県トラック事業協同組合）

●優良専従職員
6名

青柳 初美（山梨県砂利協同組合）
興石 和仁（山梨県民信用組合）
坂本 隆幸（甲府市資源回収協同組合）
佐野 勝広（山梨県民信用組合）
野武 晃（山梨県民信用組合）
古屋 滋（富士観サービス事業協同組合）

生活に無くてはならないもの

当県のような公共交通機関の未発達地域において、自家用車はなくてはならない移動手段です。狭い道や坂道などが多い地域における生活の足は、軽二輪又は小型二輪車ということになるでしょう。

一般社団法人日本自動車工業会の調べでは、「二輪車の使用目的のうち、80%以上は通勤・通学、買物など生活交通面で使われ、通勤・通学に使われる二輪車のうち、約4分の3は職場・学校までの直接交通手段として使われている」とされ、効率的な交通手段だと言われています。

二輪車は、業務交通の面でも活躍しており、郵便、新聞の戸別配達をはじめ深いですし、一般企業でも得意先回りにスクーターを用いるなど、業務の効率化策として導入されています。ピザの配達や宅配便などは毎日よく見かけます。

白バイ、消防・救急でも現場にいち早く急行し、初期消火・救命のための手段としても役立っていますし、阪神・淡路大震災を境に、近年発生した大地震や大規模災害時に二輪車を使って救援活動を行おうというボランティア組織も各地で誕生しているそうです。

社団法人全国軽自動車協会連合会の統計を見ると、昭和42年の二輪車の販売台数は、約43,000台であったものが、その後の高度経済成長の波に乗り増加、いわゆる「バブル」崩壊を迎える直前の昭和63年には、これまでの統計期間中で最高、昭和42年当時に対し、77.5%増の32万4,000台まで達しました。

しかし、近年の販売台数は、平成21年度では最高時のわずか35%たらず、さらに、平成18年度と比較しただけで、37%減の11万2,000台余りまで低下しています。

この背景には、平成18年5月に改正された駐車場法により自動車駐車場の対象範囲に自動二輪車も含まれることになり、二輪車の利用範囲が制限されたことに大きな要因であると言われています。

昨年未までの3年間の間に、15.2万台の二輪車を取り締まれ、約13.6億の反則金が払い込まれたとのデータもあるようで、二輪駐車場の確保が遅れている行政が市民より非難を浴びる結果にもつながってしまっています。

イタリアは、二輪車社会と言っても過言ではなく、VESPA（ベスパ）に代表される小型スクータータイプの車輦は下は14歳から上はほぼ寿命とよばれるくらいの方々まで日常の足として活用されています。二輪車の需要に比例して高まるCO2やNOxの排出量を低減させるために、日本でも行われているスクラップインセンティブ（13

年超の車輦を廃車にする場合における補助金制度）が二輪車にも適用され、約7万円の補助金が出ているそうです。

社会から締め出すのではなく、将来においても共生できる仕組みづくり・考え方が、この国でも生まれて来ないですかね。



山梨県中小企業団体中央会
情報連絡員報告

(平成22年4月分)

本県の4月の景況では、全業種のDI値が、売上高-4(前年同月比+68)、収益状況-22(前年同月比+44)、景況感-30(前年同月比+42)と前年同月比では、前回3月調査の報告と同様に全項目において改善が見られ、順調な推移を見せている。

業種別のDI値で見ると、製造業は、売上高-10(前年同月比+50)、収益状況は-25(前年同月比+35)、景況感-30(前年同月比+40)と大幅にポイントが改善している。しかし、前月比では売上高のみが10ポイント悪化となっている。

非製造業でもDI値は、売上高±0(前年同月比+80)、収益状況-20(前年同月比+50)、景況感-30(前年同月比+43)と、前年同月比で大幅にポイントが改善しているが、前月比では景況感が3ポイント悪化している。

政府は4月の月例経済報告で国内の「景気は、着実に持ち直してきているが、なお自律性は弱い」としており、景気ウォッチャー調査では5月連続で現状判断DIが上昇し、「景気は厳しいながらも、持ち直しの動きが見られる」と報告されたところである。

県内景況についても、本調査の4月報告から、DI値のポイントの改善は連続して順調な推移を見せるものの、連絡員からの業界概況の報告では、前月同様に厳しいコメントが多数を占めており、県内中小企業の経営環境は依然として先行き見えない厳しい状況が続いている。

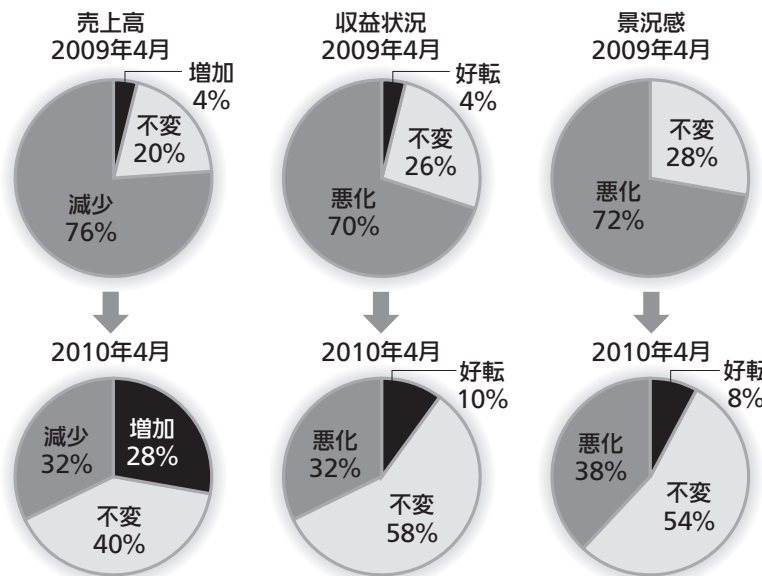
一方で、製造業の一部では、好転の兆しに期待感が見える報告も僅かではあるが増えてきており、今後、DI値の改善に伴った明るい報告が増えることに期待したい。



データから見た

業界の動き

データから見た業界の動き (平成22年4月分)



トピックス

業界から一言

4月の調査では、景気動向の変化、現状とその背景などについて、また、平成22年度(4-3月期)の開始にあたり、業界または組合員全体の動向・予測(売上高・原燃料等経費・資金繰りなど)についてコメントを求めた。

材料の値上げの要請はまだないが、燃料が値上がり、経費がかさむと予測。資金繰りは厳しい。

繊維・同製品(アパレル)／全体としてはほぼ昨年並の水準に落ち着いてきた。今後わずかながら上昇を期待。個性的な商品の引き合いが活発化。

紙・紙加工品／燃料がジワジワ高騰しており、収益を圧迫している。

窯業・土石(生コン)／今年度は、公共事業が13%位落ちるとの予想。生コン単価は県の積算単価が上がったが、全体としては出荷の減少による価格の低下を懸念。

一般機器(1)／2月末より仕事量が増加。4月は休日返上。稼働時間も増加した。在庫も減少し、外注に仕事を出す程。

一般機器(2)／中国向けの設備が夏までに終り、それ以後現地での生産体制に切り替わるため、日本の設備関係の仕事も一段落。

電気機器／低水準で推移。一部では引き合いが増加。金融機関の対応は、各行とも厳しい。

非製造業

卸売(塗料)／先月よりも悪化の傾向が大きく、国内向けは全て低調で海外依存がより一層明確に。販売額は予想以上に低迷。価格競争は激しいが、5月に入り多少引き合い物件が増えしてきた。

卸売(紙製品)／古紙の発生はマイナス20%と落ち込み、仕入れ競争に突入している。また、流通業界の脱ダンボール化による影響も要注意。

卸売(ジュエリー)／小売市場においては昨年底を打ったとの見方がある。メーカーは一年遅れで今年が底になる可能性がある。

小売(SC)／気候の不順で衣料が伸び悩み。

小売(食肉)／デフレ傾向の中、売価低下で、収益は落ち込んだ。花見のシーズンでは雨や寒さでバーベキュー需要は昨対で50%にとどまった。

小売(事務機文具)／官公庁における単価契約により受注減の傾向。契約期間が長期化し受注機会も減少。小売(石油)／元売の仕切価格(全油種)の値上げを受け、県内SSは5円程度の値上げを行った。5月はドバイ原油の騰勢が衰えず、全油種とも大幅な値上げを予想。

商店街／天候不順で春物が売れない。雨が多くの街に人が少なく、売上低下。飲食・高級品が低調。

不動産取引／住宅ローンの利用が増加しているが、優先は建物代金で、地価の下落は止まりそうにない。

宿泊業／厳しい状況の中、企業の経費削減努力にもか

かわらず、公共料金は徐々に上昇。

建設業(総合)／建設資材の鋼材・生コン等の値上がり、工事量の減少に伴い、収益状況は悪化。資金繰りについては7月くらいまでは若干苦しいが、その後は新たな工事発注等により落ち着いてくると予想。

建設業(型枠)／公共工事を中心に、工事量が増加。大型の民間工事もあるものの、全体的にはまだ少なく、公共工事も前倒しの影響によるもので先行きに不安。燃料、材料が値上がりする一方、工事単価は最安値を更新。

運輸(バス)／4月は燃料が値上がり、5月からも上がる。5月は学校関係は平日に有る程度確保しているが一般の旅行は減少。

地元の小麦粉を使用して焼いた「地粉パン」

地元の小麦粉を使用して焼いた「地粉パン」

地元の小麦粉を使用して焼いた「地粉パン」

地元の小麦粉を使用して焼いた「地粉パン」

地元の小麦粉を使用して焼いた「地粉パン」

業界の声

山梨県パン協同組合

理事長 梅本 実民

業界の現況は?

当業界では、大手企業が多くシェアを獲得しています。国内売上の約75%を大手企業11社が獲得しており、その他約25%を数千社いる我々中小企業者で分け合っている状態です。

当業界において、現在抱えている課題は人材確保です。当業界は小中学生の「将来の夢」ランキングでは常に上位に位置していますが、実際は朝早く、力仕事も多い等、決して楽しいだけの職場ではありません。そのため、イメージだけで入社してきた社員の多くは、辞めていってしまいます。また、大手企業の進出、不況の煽り等も重なり、後継者不足、廃業等の課題も抱えています。

今後の展開は?

今後は、どれだけパンに付加価値を創造していけるかが重要となってくるように思います。大手の攻勢は依然として強く、その莫大な資産を活用した装置産業により、大量生産・低価格を可能としています。私はそれに対抗していくには、数ではなく味・アイディアだと思っています。機械には真似できない味を生み出す、オリジナリティ溢れる商品を提供する等、それぞれで智慧を振り絞り、何かの付加価値を創造することが大切ではないでしょうか。

また、本年10月9日に、当組合青年部の上部団体である「全パン青年部総連盟」において、創立20周年を記念したイベント「ご当地パンまつり」が開催されます。そこでは、各都道府県のオリジナリティ(付加価値)溢れるパンが勢揃いする予定となっています。今後は、このようなイベントをきっかけに、それぞれが付加価値を創造したパン作りを行っていき、と考えています。そして、厳しい現状ではありますが、大手企業にはできない、我々にはできることで、この不況を勝ち残っていきたいです。



地元の小麦粉を使用して焼いた「地粉パン」

山梨の木材のことなら 何でも！

ACTIVE KUMIAI



山梨県産材PRキャラクター

一般社団法人山梨県木材協会（戸栗敏理理事長）は、平成22年12月、県内の木材関連加工・製材・流通・販売及び建築施工など、需用者の幅広いニーズに対応できるよう、会員資格の裾野を広げ、

17社の事業者によって設立された「新たな連携組織」である。

主な事業として、放置林が多く見られる民有林の統合管理による低コストで安定的な木材供給の試み、県・市町村施設の木造・木質化への取組、若手製材事業者による事業継承者新たな事業設備への投資、建築士・工務店等で構成する家づくりの会等による県産材住宅建築促進活動の展開、さらには木質バイオマスなどのエネルギーに関する取組など、県産材需要拡大の様々な取組を行うほか、供給者側の視点で木材の品質向上・在庫管理・トレーサビリティ事業及びユーザー側の視点にたった木材の普及啓発及びビジネスマッチング事業も実施している。

また、木材・木製品の良さを広く一般消費者に浸透させ、木材需要創出を図る目的で、昨年10月に山梨県南アルプス市上今諏訪にある木の国サイト内にアンテナショップ「木の国や」をオープン、柱材、内装材、ガーデンング、木製雑貨、おもちゃなどを展示販売しているほか、建築士により新築・リフォーム相談の受付、県産材を活用したモデル住宅展示を行っている。

このほか、毎月第2・第4土曜日は同所において木のワークショップを実施しており、5月～6月は「山梨生まれの木を使ったスプーンづくり」教室を開いている。

6月の開催日は、12日及び26日の共に土曜日、午前10時から午後4時まで、小学五年生以上を対象、お問い合わせ・お申し込みは、山梨県木材協会「木の国や」電話055-280-2020 担当：泰楽さんまで

季節感あふれる店舗づくり

ACTIVE KUMIAI

化粧品業界は、大型店や量販店、ドラッグストア、インターネットなどの販売経路の拡大により商品の低価格競争が激化している。

このような状況を打開するべく、山梨県化粧品小売協同組合（西山武夫理事長）では、組合オリジナル商品「KIRYO」のキャンペーンやオリジナルキャラクターの開発、環境活動の一部として空瓶回収、就職活動やお客様に好印象を与える「メイクアップセミナー」などを展開してきた。

しかし、「お客様の来店回数や滞留時間は、年々短くなってきている」との組合員の声にこたえ、5月27日「季節感あふれるディスプレイ」と題して研修を行った。フラワーデザイナーの海野たかこさんを招き、ディスプレイの意義や手法、効果について学んだ後、講師のアドバイスを受けながら、それぞれの個性あふれる作品を完成させた。

参加者は、「装飾や飾り付けが、コミュニケーションのツールになることや楽しい売場づくりをすることで、滞在時間が長くなり、より多くの商品が目に入りやすくなる。結果、売上の増加に結びついていくなど、細かくポイントを教えてもらえたことはとても勉強になった。」と、語ってくれた。



熱心に取り組む参加者

参加者は、一足早い初夏の香りを持ち帰り大好評のうちに終了した。



講師の海野たかこ氏

おもてなし タクシードライバー認定

ACTIVE KUMIAI



熱心に聞き入る受講生

甲府ハイヤー事業協同組合（大木政理理事長）は、タクシーを利用した観光客を温かくもてなすことができ、県外からの観光客の皆様に満足していただき、観光ガイドサービスができるようタクシードライバーの育成に努めている。また、「武田信玄と山本勘助」などについてもいち早くタクシードライバーを集め講習会を開催するなど、迅速な組合事業に取り組んでいる。甲協タクシーでは、観光客と接する機会が多いタクシードライバーの接客力向上を図るため、傘下組合員のタクシードライバーに、(財)やまなし観光推進機構と山梨県タクシー協会が開催する、「山梨おもてなしタクシードライバー」を認定するための養成講座に3日間参加させ、乗客に観光情報を提供できるように、山梨県の知識情報、歴史・地域情報、接客技術を身に付けさせた。受講したタクシードライバーは「山梨おもてなしタクシードライバー」の認定証も交付された。

最後に、ビールのおいしい季節になってきました。外でお酒を飲まれた場合は、甲協タクシーをご利用下さい。また、タクシードライバー代行も行っておりますので是非ご利用下さい。

ご用命は、甲府ハイヤー事業協同組合（055-232-2020）まで。



スクリーンに見入る受講生

半世紀の歴史に幕 新たな名所へ

ACTIVE KUMIAI

TOPICS 甲府城南商店街振興組合

甲府城南商店街振興組合(奥石陽理理事長)は、これまで甲府中心街「オリオン通り」のシンボルとして、1961年の完成以降共に歩んできたアーケードが解体された。これは、当該組合が準備を進めてきた「オリオン・スクエア整備事業」によるもので、利便性と観光を目指す甲府駅周辺エリアと伝統と下町文化のある中央商店街エリアとの結節点であり、岡島百貨店やこの秋完成予定の再開発ビルと一体化空間を構成することで、山梨県内最大甲府中心市街地活性化の推進するコア・エリアを目指している。

設置から49年が経過し、老朽化が進んだアーケードは、ガラス張りの屋根に架け替えられるが、屋根の高さはこれまでより3メートル高くなり、全長は50メートル、路面も整備され、8月の完成を目指している。

透明合わせガラスのルーフで全天候型とし、昼は太陽光で明るく、夜は星空が楽しめる。新たな名所が、出会い・楽しさ・安らぎの場を来場者に提供することとなる。

また、官民一体となったまちづくり整備事業では、甲府紅梅地区再開発ビルも現在建設中で、商業スペース、駐車場、宝石美術専門学校、住居が創出されることになっており、そちらも今秋の完成を目指して着々と準備が進められている。



取り壊されたアーケード



オリオン・スクエア完成予想図

店舗を改装し、心機一転 リニューアルオープン

ACTIVE KUMIAI

TOPICS 一般社団法人 さかいがわ農産物直売所



店舗内の改装も完了しリニューアルした直売所

「さかいがわ農産物直売所」(一般社団法人さかいがわ農産物直売所)では、3月の中旬から店舗の改装工事を行い、直売コーナーの拡張に伴い、今まで店舗内にあった事務所を直売所に隣接する形で増築し移設した。4月1日から心機一転リニューアルオープンをした。

当直売所では、境川町で生産される四季折々の良質で新鮮、安全の果物や野菜を消費者に提供しており、地域活性化の一翼を担っている。

6月には「もちろこしフェア」、11月には「感謝祭」など、消費者とのふれあいを大切にしたイベントも開催している。法人化する以前は、境川村が設置、管理を行う農産物直売所(境川村地域振興センター)の運営を任された地元生産者による「境川村農産物直売所運営委員会」として活動を行ってきた。

平成16年9月には、県中小企業団体中央会の支援により「有限中間法人さかいがわ農産物直売所」を設立。翌年より町の指定管理者として直売所の運営を委託されている。(市町村合併後は笛吹市の指定管理者として運営。一昨年の法改正により一般社団法人となる)

これからの季節は、彩りもきれいな、種類豊富で新鮮な野菜や果物が店頭に並びますので、是非一度お立ち寄り下さい。

また、トマト、モロコシ、プラム、桃にブドウなどなど、季節ごとの野菜や果物をお届けする「ふるさとフレッシュ便」を各種コースで設けております。(申込み加入が必要となります)詳しくは直売所のホームページをご覧ください。

● <http://www.sakaigawa-chokubai.jp/>



店頭には季節の野菜が並び

選ばれる葬儀社とは？

「葬儀相談員を講師に招き、研修会を開催!!」

ACTIVE KUMIAI

TOPICS 山梨県葬祭事業協同組合

山梨県葬祭事業協同組合(保坂孝夫理事長)は5月17日、ホテル古柏園にて研修会を開催した。今回は、講師に「葬儀相談員市川愛事務所 リリーフ」代表である市川愛氏を招き、「選ばれる葬儀社となるために」をテーマに、研修を行った。

今回の研修内容は大きく分けて5つある。「安心していただける葬儀社となるために」、「お客様に安心していただける事前相談スキル」、「お客様から信頼される対応とは」、「気持ちの良い会館スタッフとは?」、「提案」である。

市川氏は、この研修会の中で、お客様と葬儀社は「人対物」の関係ではなく、「人対人(ホスピタリティ)」の関係が大事であることを説いた。お客様は葬儀を行う際、不安や要望を持って葬儀社を訪れる。その際に、それらに対する的確に応え、お客様に「安心」を与える。この「安心」を与えることが、葬儀社にとって重要なポイントとなってくる。葬儀について、相手のことを考えず、ただ説明しているのでは、お客様に「安心」は与えられない。お客様は「物」ではなく「人」なのである。小さいけれど、親切な対応の積み重ねはお客様に通じる。それが「人対人」である。葬儀における見聞書をもっとわかりやすく、お客様の要望をゆくりと聞く、ホスピタリティでお客様に「安心」を与える、葬儀の不安を無くするための情報発信を行う等、お客様が「安心」して葬儀が行える環境作りにより、お客様はその葬儀社を選ぶのである。



真剣に聴講する組合員ら

研修終了後、保坂理事長は「組合員企業の中でもできていないこと、できていないことがあったと思う。この研修会を機会に、できていないことは明日からでも実践し、新しい時代を乗り切ってほしい。」と述べ、出席した組合員及びその従業員は、「安心」というキーワードの重要性を改めて認識した様子だった。



講演を行う葬儀相談員の市川愛氏

ただいま開発中!!

小型化電子部品における高密度実装接続を容易にする、めっき被膜の試作開発

会社の営業内容についてお聞かせ下さい。

弊社は、株式会社加藤電器製作所のグループ企業として昭和63年に設立され、落合工場は、半導体（IC、LSI等）の外装めっき（鍍金）を主な事業として行っています。最先端の半導体、電子部品の分野では、小型化や薄型化が進んでおり、また多様化する顧客ニーズに対応できるかが企業の存在意義に関わってきます。弊社では、それら半導体、電子部品の外装めっきをシートめっき方式（リードフレームを使用）を採用し、自動めっき装置で生産しています。

本研究開発はめっき業者が集積している山梨県機械金属工業団地内の落合工場で行いました。

最近の景況感についてお聞かせ下さい。

弊社の取引先は、主に半導体、電子部品メーカーですが、近年合併・再編が進み、海外に製造拠点がシフトしてきているため、一般的な製品の国内市場は今後右肩下がり傾向にあります。ただし、先端技術を取り入れた高度な半導体、電子部品については、まだまだ国内技術が必須であり、今後も伸長する分野とされます。

また、弊社の業績については一昨年のリーマンショック以降、長らく低迷が続いていましたが、ここに来て不況前の景況まで戻ってきており、今後は好転していく傾向にあります。

ものづくり補助金を利用して行った研究開発についてお聞かせ下さい。

①補助金申請にいたる経緯

前述のとおり弊社は、半導体・電子部品の外装めっきをシートめっき方式（リードフレームを使用）と言われる、噴流めっき液を使用した自動めっき装置で生産しています。

しかし、噴流式シートめっき方式※1、図1は、膜厚の均一化については優れているものの、シート型の画一化された形では、めっきが出来ないという難点があります。また、近年の技術向上により小型製品にめっきすることも求められてい

ることや、諸外国のめっき技術のレベルアップによりシート型めっき方式のみでは将来想定される市場規模縮小に伴う価格競争に巻き込まれる恐れがあるため新たなめっき方式を模索していました。

このようなか、噴流めっき技術の特徴を活用したく、バレルめっき※2という膜厚の均一化に難点があるものの、さまざまな形の製品にめっきできる技術に目を付けました。このバレルめっき方式に噴流式の技術を加えれば膜厚を均一化することが可能であり、実現すれば様々な製品へめっきを行うことができ生産性も向上すると考えたため、補助事業に申請することとなりました。

②バレルめっきの課題解決方法

一般的なバレルめっきの課題は(1)バレル内での浮遊(2)バレル内めっき液の濃度低下(3)被めっき品の凝集くっつきを減少させる事です。

これらの課題に共通しているのは、バレル内マイナス電極に被めっき品をいかに効果的に接続させるかと、新鮮なめっき液の補充を継続できるかであり、それらを解決するために、従来弊社が行っている噴流めっき方式の特性を左記のとおり活用し、課題解決に努めました。

- (1)被めっき品にめっき液を噴流させ、浮遊を抑制させる
- (2)浮遊を抑制させた被めっき品を、さらに噴流めっき液でマイナス電極に誘導させる
- (3)バレル内のめっき液を噴流注入させ、恒に新鮮な状態を保つ

これらの方法を試験、開発して試作品の製造を行い、膜厚の均一化を図り、製造プロセスの高度化、安定化を図り、必要な試験、信頼性評価を行い、試作開発の有効性を高めました。



(株)オークラマイクロコーティング
次長 加賀見 一博 氏

また、現状解析と最適製造方法を選定するため、山梨県工業技術センターに協力をいただき化学分析装置、信頼性解析装置により、現在のバレルめっき品の膜厚、組成、断面分析等及びめっき強度等の信頼性評価、素材等との結合、拡散状況評価を行いました。

③新バレルめっき試作開発ラインの構築

②の課題解決方法等により、従来のバレルめっき装置と比較して膜厚データ等が大きく向上した図2試作機(図3)が完成しました。今後はさらに小型の製品にもめっきできるよう研究を進めているところです。

(※1)噴流式シートめっき方式

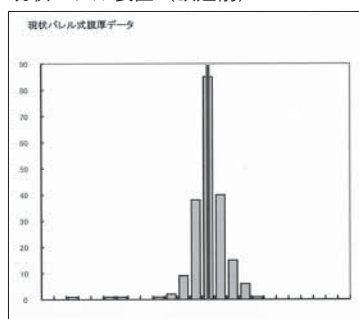
長方形のシートをめっき液に浸漬し、シートを横に移動させることによってめっきする方法。噴流式とは、めっき液を常に新鮮な状態を保つため、めっき液を循環させることです。

(※2)バレルめっき

小さな孔を沢山開けた樽(バレル)の中に製品を入れてめっき液に浸漬し、樽を回転させながらめっきする方法。

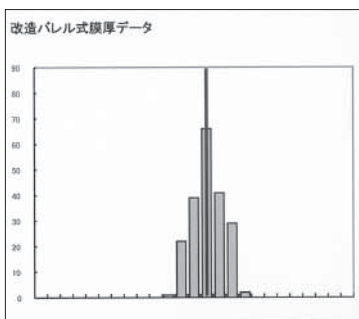
図2 膜厚の向上

現状バレル装置（改造前）



弊社測定値

改造バレル装置（噴流式）中間報告



弊社測定値

図1 噴流式シートめっき方式

噴流式シートめっき方式のライン



リードフレーム

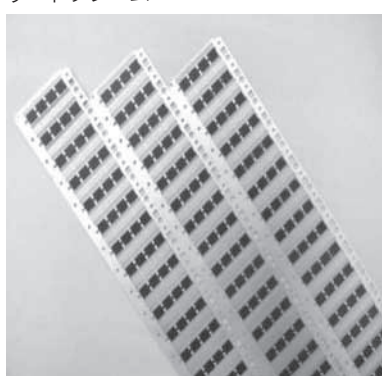
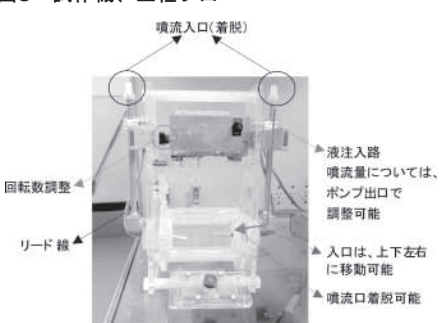


図3 試作機、工程フロー



【概略工程フロー】



直径1mm以下(右から1〜2番目)ほどの小型製品へのめっきに取り組んでいます。

●問い合わせ先 (株)オークラマイクロコーティング 次長 加賀見 一博 氏
〒400-0834 山梨県甲府市落合町817
Tel:055-243-2415 FAX:055-241-1632
E-mail:kagami@omc.kdg.co.jp

このコーナーは、本会の上部団体である全国中小企業団体中央会が行った「ものづくり中小企業製品開発等支援補助金(試作開発等支援事業、製品実証等支援事業)」の実施企業が補助事業を利用してどのような研究開発を行ったかについて紹介するために企画されました。

第2回目の今回お話を伺ったのは、(株)オークラマイクロコーティング加賀見一博次長です。

富士の国やまなし館 「物産まつり」開催



熱心に商品説明するスタッフ

本会は、5月13日（木）～14日（金）にかけて東京日本橋にある「富士の国やまなし館」入口店頭（建物外）において「物産まつり」を開催し、山梨の特産品を都心のサラリーマンやOLにPRし、販売を行った。

今回は、農工商連携により作られた富士吉田の「クレソンの漬物」や「花豆・明野金時（さつまいも）」を使ったパイを中心にテストマーケティングを行った。明野金時・大泉の花豆を使用したパイは上品な甘さで、輸入原料との違いに理解のあるお客様には容易に受け入れられた。竹炭入りのスティックパイは、「炭を食べるの？」「色がパイっぽくない」などの理由で試食もあまり進まなかったが、抹茶・紅茶・ハーブのスティックパイも含め、2日目にはパイは全て完売することができた。

新製品のクレソンの漬物は、その独特のながみと茎の固さ具合がクレソンのイメージと異なると感じる方が多く、あまり好評ではなかったが、購入者は逆に「このながみが良い」と評価していた。

「富士の国やまなし館」は、6月1日にリニューアルオープンするため、商品の補充を行っていない。食品を中心とするアイテム数が減少し、店内が閑散としていたため、来場者数も以前と比較して少なかった。

また、今年度は新たに都内の大型店（百貨店・スーパー）を訪問し、特産品の紹介を行い販路拡大を図ることも併せて実施した。

商品の売り込みには、商品別の担当者との面会が必要がある。その際には、商品のチラシや商品リストの持参が不可欠である。ただし、資料を持参しても商談から取り引きに至るまでには時間がかかる。そこで今回は、まず、本会の取り組みを知っていただくとともに、大型店が本会や山梨県の特産品に期待することを聞くことに主眼を置いた。

今後は、催事情報等を手入れし、まず、催事等に参加して来場顧客にどれほどアピールできるのか、テストマーケティングの実施が必要である。

情報BOX

平成22年度全国安全週間の実施について

厚生労働省においては、産業界における自主的な労働災害防止活動を推進するとともに、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図るため、毎年、全国安全週間を主唱しています。

本年も7月1日から7月7日までを本週間、6月1日から6月30日までを準備期間として「みんなで進めようリスクアセスメント めざそう職場の安全・安心」のスローガンの下に全国一斉に積極的な活動を行うこととしました。

1.主唱者

厚生労働省、中央労働災害防止協会

2.協賛者

建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会、鉱業労働災害防止協会

3.協力者

関係行政機関、地方公共団体、安全関係団体、全国安全会議、地方安全会議、労働組合、経営者団体

4.実施者

各事業場

5.主唱者、協賛者の実施事項

- (1)安全広報資料等の作成、配布を行う。
- (2)雑誌等を通じて広報を行う。
- (3)安全パトロール等を実施する。
- (4)安全講習会等を開催する。
- (5)安全に関する標語等の募集を行う。
- (6)安全衛生に係る表彰を行う。
- (7)「国民安全の日」(7月1日)の行事に協力する。
- (8)事業場の実施事項について指導援助する。
- (9)その他「全国安全週間」にふさわしい行事等を行う。

平成22年5月下旬より実施する 被扶養者資格の再確認にご協力をお願いします。

全国健康保険協会

平成22年5月下旬より、健康保険の被扶養者で被保険者証をお持ちの方が現在も健康保険の被扶養者としての条件を満たしているかを再確認させていただきます。

事業主の皆様には「健康保険被扶養者状況リスト」を送付させていただきますので、被扶養者資格を確認していただき、同リストを協会けんぽあてご提出いただきますようお願いいたします。この再確認は、保険料負担の軽減につながる大変重要な事務ですので、皆様のご協力とご理解をお願いいたします。

1.目的

皆様の保険料は、医療費及び高齢者の医療費への拠出金として使用されています。協会けんぽでは、保険料負担の抑制のため、医療費及び高齢者の医療費への拠出金の適正化を目的に被扶養者の資格を再確認させていただくこととしています。平成22年度においては、特に、就職などにより勤務先にてご自身で健康保険に加入した方の被扶養者解除の届出が未提出（二重加入）となっていないかを重点的に確認いたします。

2.対象者

平成22年5月13日現在、協会管掌健康保険の被扶養者であって、次の方々を除きます。

ア 平成22年4月1日において18歳未満の被扶養者（平成4年4月1日生の方は対象となります。）

イ 平成22年4月1日以降に被扶養者の認定を受けた被扶養者

注1:すべての被扶養者が上記アまたはイに該当する場合は、再確認が不要となるため、事業主の方へ被扶養者状況リストは送付いたしません。

注2:上記ア、イに該当する方についても、被扶養者状況リストに氏名等が印刷されていますが、対象外のため被扶養者資格の再確認の必要はありません。（リスト備考欄に「対象外」と表示してあります。）

3.送付時期

平成22年5月下旬から6月下旬にかけて、順次、事業主様あてに被扶養者状況リスト等を送付いたします。

その他詳細については、当会HPをご覧ください。 URL▶ <http://www.kyoukaikenpo.or.jp/news/detail.1.43162.html>

編集後記

5月の総会シーズンも終わりとなり、いよいよ平成22年度の活動が本格的に始まります。今年度も山梨県中小企業団体中央会の活動にご協力いただけますようお願いいたします。

●ご意見・ご要望は、
中小企業タイムズ編集班まで

TEL 055-237-3215

FAX 055-237-3216

E-mail webmaster@chuokai-yamanashi.or.jp

藍綬褒章



木村 勝幸氏

都留機械金属工業協同組合
理事長

黄綬褒章



竹野 満氏

元 山梨県不動産鑑定協同組合
理事長

政府は、平成22年春の褒章受章者を4月28日付で発表した。山梨県内の受章者は6名が受賞し、組合関係者では竹野満（元山梨県不動産鑑定協同組合理事長）氏、木村勝幸（都留機械金属工業協同組合理事長）氏が受賞した。

春の褒章

組合関係者2名が受章

旭日双光章



加藤 基道氏

元 身延駅前しょうにん通り
商業協同組合 理事長

政府は、4月29日付で平成22年春の叙勲受章者を発表した。山梨県内の受章者は42名が受賞し、組合関係者では旭日双光章に加藤基道（元身延駅前しょうにん通り商業協同組合理事長）氏が受賞した。

春の叙勲

組合関係者1名が受章

栄誉

合同面接会参加企業募集中

（社）山梨県シルバー人材センターではシニアワークプログラム事業を実施し働く意欲のある高齢者の就職、就業支援をしています。

タクシー乗務員合同面接会

- 平成22年7月6日（火）
- 山梨県立青少年センター



警備業務合同面接会

- 平成22年9月3日（金）
- 一宮町福祉センター



*参加企業を募集しています。詳しくは下記までお問合せ下さい。

（社）山梨県シルバー人材センター連合会

〒400-0355 甲府市飯田3丁目3-28
Tel.055-228-8383

情報BOX

平成22年度「JAPANブランド」支援プロジェクトを決定 世界に通用するブランドを目指す19プロジェクト

関東経済産業局は、「JAPANブランド育成支援事業」の平成22年度支援プロジェクトとして、管内7都県（栃木県、群馬県、東京都、新潟県、山梨県、長野県及び静岡県）19プロジェクトの決定を受けて、海外マーケティングや海外見本市の出展等、ブランドの創成から発展に向けた段階的支援を行います。

- 1.「JAPANブランド育成支援事業」は、地域産品の輸出を促進するため、世界に通用する地域産品のブランド力の確立を目指す取組です。
- 2.「JAPANブランド育成支援事業」は、「JAPANブランド」の確立を目指し、地域の小規模事業者等と外部から招聘した輸出産品プロデューサー等がー丸となって行う取組に対して支援を行う事業です。
- 3.JAPANブランド全国事務局では、海外見本市の出展支援や、バイヤーとのマッチング等、各プロジェクトの取組が、実際の販売に結びつくよう側面支援を行う予定です。

本件に関するお問い合わせ先

関東経済産業局 産業部 経営支援課 Tel.048-600-0331（直通）

URL: <http://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/chikishigen/japanbrand/20100520japanbrand.html>

応援します、あなたの企業

「景気対応緊急保証（全国緊急）」

国際的な金融不安等を契機とした現下の厳しい経済状況において、例外業種を除き原則として全ての業種に属する中小企業の皆様の資金繰りを、本制度でサポートします。

「条件変更対応保証」

金融機関からの借入に関する返済条件の見直しを行う際に必要となる資金の保証を行うことにより中小企業のみならずの返済負担の軽減を図り、金融の円滑化を促すための制度です。

これまで公的金融とお取引のない方でも、信用保証協会による返済負担軽減支援を受けられるようになります。

「流動資産担保融資保証制度（ABL保証制度）」

中小企業者が有する売掛債権及び棚卸資産（流動資産）を担保として保証を行う保証制度です。

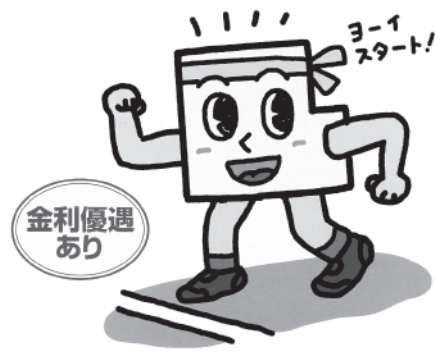


山梨県信用保証協会

本店 甲府市飯田2-2-1（山梨県中小企業会館）
TEL.055-235-9700 FAX.055-232-0160
URL: <http://www.yiso.or.jp/~shinpo/>
E-mail: shinpo-yamanashi@rondo.ocn.ne.jp

富士吉田支店 富士吉田市下吉田1832
TEL.0555-22-0992 FAX.0555-22-0921

山梨中銀 創業支援ローン ファインスタート



金利優遇あり

- 最大1,000万円
- 無担保でのお取扱い
- 第三者保証人不要

※審査結果によっては、ご希望に添えない場合もございますので、あらかじめ御了承ください。

くわしくは山梨中央銀行の窓口
またはフリーダイヤルへどうぞ 0120-201862

朝日の昇らぬ夜はない。

私たちのトラックは、どんな悪条件にさらされても、必ず朝日を昇るのを待っています。

それは、国内輸送の9割以上を担っているという責任があるから、日本の経済と豊かな生活を支えている人だからという自負があります。

だから、私たちは常に努力しています。安全に、確実に荷物を運ぶために、「事業用自動車安全プラン2009」など具体的な安全対策やコネクティブな運用を徹底。また、かけがえのない環境を未来に残すための「エコドライブ（エコドライブ）」や「低公害車の導入促進」などにも積極的に取り組んでいます。

しかし、世界的な不安による先の見えない環境の中に私たちはいます。原油高騰による燃料費の高騰に加え、換装の必要も少なく、運賃の値下げ競争など、次々と押し寄せる困難は中小企業が多数を占めるトラック業界にとって、企業存続の限界を越えるものとなっています。

それでも、私たちを走り続けるのは、みんなが望まれば日本経済は立ち振るると信じているから、日本は元気になると信じているからです。必ず朝日は昇るから。

がんばれ日本!!

環境に優しいトラックが つなぐ人の輪 未来の輪

（平成21年度 環境標語 最優秀賞）

（社）山梨県トラック協会（環境保全対策委員会）
（社）全日本トラック協会
後援／山梨県 関東運輸局山梨運輸支局

